

(様式1)

令和2年度 学校評価結果報告書 (高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 品性の陶冶に努め、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。 2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う。 3 真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。
------------	--

(2) 現状と課題	基本的な生活習慣、基礎学力、コミュニケーション能力が身につけていない生徒や中学校において不登校を経験した生徒、特別な支援を必要とする生徒もおり、多様な生徒一人一人が安心して登校し学べる学校を目指す。
-----------	---

(3) 重点目標	1 多様化する生徒一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の定着に努める。(学習指導の充実)
	2 生徒自らが自己実現を図っていくための力の育成を図り、健全な学校生活を確立する。(生徒指導の充実)
	3 働くことの大切さや進路選択について、生徒・教職員・保護者が共に早期から取り組む計画的・組織的・継続的な進路指導の推進に努める。(進路指導の充実)
	4 工業教育を通して、生徒のものづくりへの意欲向上とともに、望ましい職業観・勤労観を醸成する指導に努める。(ものづくり教育の充実)

(4) 結果の公表	学校評議員会で定時制の状況を含め保護者対象に実施したアンケートについても報告した。アンケート結果については年度末の成績とともに保護者にも送付し、ホームページへの掲載も行う。
-----------	--

学校整理番号	64
学校名	青森県立弘前工業高等学校
定時制の課程	○本校・校舎・分校

自己評価実施日	令和3年 2月22日(月)
学校関係者評価実施日	令和3年 2月 2日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員4名 (保護者、地域住民、大学等の教育関係者等)
学校関係者10名 (校長、教頭、事務長、関係分掌主任等)

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導の充実	①多様化する生徒に対応するため、学習支援授業週間を設けて、職員全員で授業改善や支援に取り組む。 ②ICTの活用を推進し、基礎的学力の向上と生徒の主体的な学習を目指す。 ③特別な支援を必要とする生徒への配慮に努める。	①学習支援授業週間を学期毎にし実施し、教員の授業に対する意識の向上や生徒の学習状況の共有を図ることが出来た。 ②特別支援教育に関する校内・校外の研修に参加し、特別な支援を必要とする生徒への理解を深めた。 ③授業以外の時間(0校時等)を利用し、学習支援の指導も行った。	B	中学時代に学習習慣を身につけていない生徒や特別な支援を必要とする生徒等、多様な生徒に対し、中学校・外部の機関と連携して指導して欲しい。	①今後も研究授業の推進や授業等の見直しを行い、学習指導に生かしたい。 ②特別な支援を必要とする生徒に対し、研修等に参加し、教員の意識・知識・指導力の向上を目指したい。 ③学校の情報機器整備に対応した授業の準備を行う。
2	生徒指導の充実	①基本的な生活習慣と規範意識を育てるための指導体制の確立する。 ②生徒の健康意識向上のために、タイムリーでわかりやすい保健だよりの発行を継続する。 ③生徒会を中心とした学校行事の活性化を図るとともに、生徒の積極的な参加を促す。	①行事への参加率や集会等での聞く態度は良くなってきている。また、いじめアンケートを学期ごとに実施し、特に問題となる事例はない。 ②コロナ予防対策の効果からか、感染症の発生がすくなかった。 ③各種行事は生徒会執行部の頑張りとともに、全体的にスムーズに運営された。	B	コロナ禍における休業や行事の中止などによる、生徒のメンタルを心配している。保健室や学校医、その他の外部機関と連携し、ケアして欲しい。部活動での活躍が見られず残念である。	①生徒の視力と歯科の精密検査の受診率が低いため、今後も根気よく受診を促していきたい。また、生徒一人ひとりの理解を深めるため、教育相談を充実させたい。 ②生徒数の減少を踏まえつつ、生徒の心に残るような学校行事を生徒会執行部を中心に計画していきたい。
3	進路指導の充実	①進路情報の収集と有効活用の推進を図る。 ②企業見学会や進路講話等の実施により、進路意識の向上を図る。 ③危険物取扱者試験を始めとする資格取得を推進する。	①ほとんどの生徒が地元での就職内定を決め、コロナ禍の影響を受けることはなかった。 ②企業見学会を全年次対象に実施したり、合同ホームルーム活動等を利用した進路講話や進路情報の早期の提供により、生徒が主体的に進路を選択できるようになりつつある。 ③資格取得は合格者があり、受験生の成績や意識が向上している。	A	県外就職する生徒を心配している。企業と連絡を密にし、生徒が安心して就職できるよう今後も指導して欲しい。コロナに向き合って活動した生徒に成長がみられる。	希望進路実現のために今後も企業見学会や進路講話等の実施に継続して取り組んでいく。また、今後はアルバイト就労を希望する生徒に対し、ハローワークへ行くように指導していきたい。
4	ものづくり教育の充実	①課題研究発表会の充実。 ②教員の指導技術のレベル向上と生徒のものづくりへの意欲を養う。 ③工業技術科展を地域へのPRの場として大いに活用する。	①4年次生による課題研究発表会を通じて、下級生のものづくりへの関心が高まっているとともに、教員の指導力向上が見られる。 ②今回で12回目となる工業技術科展は、新型コロナウイルス感染拡大防止による展示規模縮小、生徒不参加での実施となり、約60名の来場者(前年度の5分の1)に留まった。生徒の自己有用感の育成に至らなかった。	B	例年「工業技術科展」で生徒が意欲的に取り組んでい状況を見ている。今年度の規模縮小は残念ですが、ものづくりを通して生徒の成長を楽しみにしている。	①課題研究発表会は4年次生が取り組んだ課題を下級生が継続し、前年度より発展した研究になるよう教員が導くことで更に有意義なものにする。 ②工業技術科展はコロナ禍以外にも資金面及び生徒募集停止による減少が理由で校外会場での実施は難しくなるが、地域へ生徒の作品を発信する方法を検討する。

(11) 総括	1 基礎学力やコミュニケーション能力に欠け、特別な支援を必要とする多様な生徒に対し、学習習慣や生活態度を含めた継続的な指導が必要がある。各授業・実習において、教材や授業スタイルを見直しICTなど新しい手法を導入して授業の充実を図り、生徒が主体的活動する環境が必要である。 2 生徒の基本的な生活習慣及び規範意識を育てるため、保護者との連絡を密にし、全職員で情報を共有し指導体制を確立する。 3 今後も進路講話や企業見学会の実施、資格取得への取り組み等を通じ、生徒一人一人の勤労観・職業観の育成に努める必要がある。 4 今後も工業高校定時制課程のあり方に対して十分に論議を尽くし共通理解を図りながら、「ものづくり」に携わる技術者の育成に意欲的に取り組む必要がある。
---------	--